

【初年度実証成果】三島村肉用牛生産組合（鹿児島県三島村）

実証課題名：離島の畜産振興にむけて～畜産ネットシステムの構築・実証

経営概要：肉用牛 559頭（うち繁殖牛403頭、子牛153頭、種雄牛3頭）
組合員28名

導入技術

- ①肉牛データベースシステム、②双方向通信システム、③生産・経営管理システム、④飼養（放牧）管理システム、⑤個体管理システム（GPS付活動量計）



獣医師・指導員等がクラウドで連携



どうしたらいい？



目標

畜産ネットシステム構築、子牛の損耗30%改善、成長成長5%向上、子牛販売価格5%向上、繁殖事故率30%低減、分娩間隔5%短縮、売り上げ5%増加、経費5%削減

1 初年度の実証成果の概要

- 生産者の飼養牛について飼養（放牧）管理・生産管理・経営管理などのデータの移行・入力を行い、データ管理・分析・表示を効率的に行える畜産ネットシステムを構築した。
- 双方向通信により生産者－役場－獣医師がテキストや動画を共有して情報交換できる体制を整備した。
- 放牧牛にGPSセンサー付活動量計を装着し、放牧場全域における個々の牛の位置情報をリアルタイムで把握できるシステムを導入・整備した。

2 導入技術の効果

畜産ネットシステムの構築

- 生産者の飼養牛について飼養（放牧）管理・生産管理・経営管理などのデータの移行・入力を行い、データ管理・分析・表示を効率的に行える畜産ネットシステムを構築した。



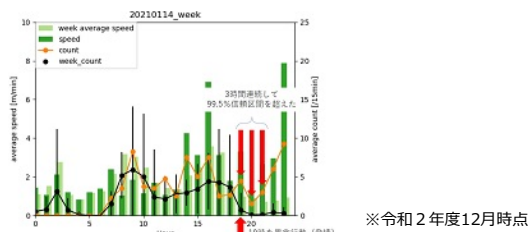
飼養（放牧）管理システム

- 放牧牛にGPSセンサー付活動量計を装着し、放牧場全域における個々の繁殖牛の位置情報をリアルタイムで把握できるシステムを導入・整備した。



放牧牛の繁殖管理

- 放牧牛に装着したGPSセンサー付活動量計を利用して、活動量の変化から発情検出を行えるアルゴリズムを決定した。



双方向システムによる情報共有

- 遠隔地においても生産者、役場および獣医師がテキストや動画を共有して情報交換できる体制を整備した。



3 今後の課題・展望

- 生産現場での実証運用を通じて、使用頻度が高い項目や追加が必要な項目などを精査し、利便性の高いシステムに改良する。
- 放牧地における発情行動パターンの確認を行い、従来の目視による発情確認との比較から発情発見率とその精度を検証し、発情通知の精度改善を検討する。
- 生産現場での畜産ネットシステムの運用実証を通じて、経営の改善効果などを検証する。

問い合わせ先

国立大学法人鹿児島大学 農水産獣医学域獣医学域・獣医学系
准教授 安藤貴朗 e-mail:ando@vet.kagoshima-u.ac.jp